

平成30年度 **国** **語** (50分)

## 注 意 事 項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけない。
- 2 この問題冊子は28ページである。  
試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせること。
- 3 試験開始の合図前に、監督者の指示に従って、解答用紙の該当欄に以下の内容をそれぞれ正しく記入し、マークすること。
  - ・①氏名欄  
氏名を記入すること。
  - ・②受験番号、③生年月日、④受験地欄  
受験番号、生年月日を記入し、さらにマーク欄に受験番号(数字)、生年月日(年号・数字)、受験地をマークすること。
- 4 受験番号、生年月日、受験地が正しくマークされていない場合は、採点できないことがある。
- 5 解答は、解答用紙の解答欄にマークすること。例えば、

10
----

と表示のある解答番号に対して②と解答する場合は、次の(例)のように解答番号10の解答欄の②にマークすること。

(例)

解答 番号	解 答 欄				
10	①	②	③	④	⑤

- 6 問題冊子の余白等は適宜利用してよいが、どのページも切り離してはいけない。
- 7 試験終了後、問題冊子は持ち帰ってよい。

国語

解答番号

1

24

1

次の問1～問7に答えよ。

問1

(ア)、(イ)の傍線部の漢字の正しい読みを、次の各群の①～⑤のうちからそれぞれ一つ選べ。解答番号は

1

2

(ア) 責任者に決定を委ねる。

1

- ① ゆだ
- ② たば
- ③ そこ
- ④ たず
- ⑤ つら

(イ) 羨望のまなざしを向ける。

2

- ① そんぼう
- ② ぜんぼう
- ③ えんぼう
- ④ たんぼう
- ⑤ せんぼう

問2

傍線部にあたる漢字と同じ漢字を用いるものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は

3

見事な仕上がりにかいシンの笑みを浮かべる。

- ① アラタめて出直す。
- ② ココロよく引き受ける。
- ③ イチゴイチエの精神を大切にす。
- ④ 母はかいホウ的な性格だ。
- ⑤ 町内をジュンカイする。

問3 次の文の内容について説明したものと最も適当なものを、後の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 4。

水稲栽培は、紀元前一〇〇〇年頃に九州北部で始まり、近畿地方に広まるまでに三〇〇～四〇〇年、関東南部に広まるまでには七〇〇～八〇〇年を要したとされています。

(溝口優司『アフリカで誕生した人類が日本人になるまで』による。)

- ① 近畿地方に水稲栽培が広まったのは紀元前七〇〇～六〇〇年頃であり、関東南部に水稲栽培が広まったのは紀元前三〇〇～二〇〇年頃であるとされている。
- ② 近畿地方に水稲栽培が広まったのは紀元前四〇〇～三〇〇年頃であり、関東南部に水稲栽培が広まったのは紀元前八〇〇～七〇〇年頃であるとされている。
- ③ 近畿地方に水稲栽培が広まったのは紀元前一四〇〇～一三〇〇年頃であり、関東南部に水稲栽培が広まったのは紀元前一八〇〇～一七〇〇年頃であるとされている。
- ④ 近畿地方に水稲栽培が広まったのは今から三〇〇～四〇〇年前頃であり、関東南部に水稲栽培が広まったのは今から七〇〇～八〇〇年前頃であるとされている。
- ⑤ 近畿地方に水稲栽培が広まったのは今から一三〇〇～一四〇〇年前頃であり、関東南部に水稲栽培が広まったのは今から一七〇〇～一八〇〇年前頃であるとされている。

問4 傍線部と意味・用法が同じであるものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 5。

頼りなく見えるが実力はある。

- ① 私は春が待ち遠しい。
- ② ゆったりと川が流れる。
- ③ 彼は魚が食べられない。
- ④ うそのようだがこれは本当だ。
- ⑤ もうすぐ日が暮れる。

問5 空欄に一文字を補うと、「その事柄について専門でない人」という意味の熟語になる。空欄にあてはまる漢字を、次の①～⑤のうちから一つ

選べ。解答番号は 6。

門外

- ⑤ ④ ③ ② ①
- 肝 看 観 漢 官

問6 次の傍線部と文法的意味が同じものを、後の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は

彼のことは知らない。

- ① 三月やよひばかりにもなりぬ。  
(蜻蛉日記)
- ② 必ず、先立ちて死ぬ。  
(方丈記)
- ③ ここはけしきある所なめり。ゆめ寝いな。  
(更級日記)
- ④ 雨、いたく降りぬべし。  
(源氏物語)
- ⑤ 春や昔の春ならぬ。  
(伊勢物語)

7

問7

古語の「あやし」には、「普通でない、変だ」、「粗末だ」、「身分が低い」などの意味がある。次の文中の傍線部の意味を判断するときの考え方に  
いて説明したものととして最も適当なものを、後の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 8。

利仁来ていふやう、(利仁)「いざさせ給へ。湯浴みに。大夫殿」といへば、(大夫殿)「いとかしききことかな。今宵身の痒く侍りつるに。乗物こそは侍らね」といへば、(利仁)「ここにあやしの馬具して侍り」といへば、(以下略)

(『宇治拾遺物語』による。)

- ① 大夫殿は利仁の湯浴みの誘いに賛同しているが、自分の乗物は使いたくなくと言っている。それに対して利仁は大夫殿に自分の家臣の馬を使うように勧めている場面である。馬の持ち主である家臣について述べているので、ここでは「身分が低い」と判断するのが適当である。
- ② 大夫殿は湯を貸してほしいという利仁の依頼を承諾しているが、利仁の乗物を停めておく場所がないと返答している。それに対して利仁は、自分の馬は家臣が連れて帰ると説明している場面である。連れ帰る役目の人物を指しているので、ここでは「身分が低い」と判断するのが適当である。
- ③ 大夫殿は利仁の湯浴みの誘いに賛同しているが、自分には乗物がないと言っている。それに対して利仁は馬を連れてきていると返答している場面である。自分の持ち物である馬について卑下している言い方だと考えられるので、ここでは「粗末だ」と判断するのが適当である。
- ④ 大夫殿は利仁の湯浴みの誘いに賛同しているが、自分には馬に乗るための馬具がないと言っている。それに対して利仁は大夫殿に自分の馬具を貸すことを申し出ている場面である。自分の持ち物である馬具について卑下している言い方だと考えられるので、ここでは「粗末だ」と判断するのが適当である。
- ⑤ 大夫殿は湯を貸してほしいという利仁の依頼を承諾しているが、乗物で別の場所に移動してほしいと言っている。それに対して利仁は自分の馬で移動すると答えている場面である。利仁が自分の馬について自慢している言い方だと考えられるので、ここでは「普通でない」と判断するのが適当である。

2

高校二年生の田島さんのクラスでは、国語総合の授業で【課題】に基づいてスピーチをすることになった。その準備として、まずは四人ずつのグループに分かれ、グループごとにスピーチの練習を行った。【スピーチ】は、その時に田島さんがグループで行ったスピーチ、【話合いの一部】は、田島さんのスピーチの後にグループで行われた話合いの一部である。これらを読んで、問1～問3に答えよ。

【課題】

「この一年間で自分が得たもの」について、それを感じた出来事の紹介を含めてスピーチする。

【スピーチ】

小学校でも中学校でも修学旅行に行きましたが、私にとっては、この高校で、この学年のみんなと、さらにいえば、このクラスのみんなと行った今年の修学旅行が最高のものでした。旅行を通して、クラスのみんなとの絆きずなを深めることができました。

初日と二日目にグループ別見学がありました。私たちの高校のグループ別見学は、初日は「自由見学」、二日目は「テーマ別見学」となっています。二日間を通してグループのメンバーは変わりません。「自由見学」の日は、グループごとに、自由に各地へ見学に行きます。一方、「テーマ別見学」の日は、グループごとにテーマを決め、そのテーマに沿って見学をします。味わいの異なる二日間になってとても楽しかったです。

私たちのグループでは、グループ別見学の初日は、南禅寺に行きました。南禅寺は京都五山の上位に置かれ、最高位の禅寺として栄えました。私の祖母は歌舞伎が好きで、私もたまに歌舞伎に連れて行ってもらったのですが、歌舞伎の「楼門五三桐」で大泥棒の石川五右衛門ごえもんが「絶景かな」と大見得をきる舞台となった三門は、この南禅寺の三門だそうです。また、南禅寺は、小堀遠州が造ったという枯山水庭園「虎の子渡し」や、狩野探幽かのうたんゆう作の「虎の襖絵ふすま」も有名です。グループ別見学の二日目には、嵯峨野さかに行き、トロッコ嵯峨駅からトロッコ列車に乗りました。ゆっくりと進むトロッコ列車から見る紅葉がきれいでした。そして、トロッコ亀岡駅で電車を降りた後はバスで移動し、保津川下りをしました。急流を下るときはすごい迫力でした。

だから、このクラスのみんなと行った修学旅行が最高のものでした。クラスのみんなとの絆を深めることができました。

【話合いの一部】

田島さん 「ありがとうございます。では、今の私のスピーチについて、何かアドバイスをお願いします。」

吉川さん 「スピーチ、お疲れ様でした。私はグループ別見学で田島さんと同じグループだったので、今の田島さんのスピーチを聞いてよく分かったのですが、クラスのみんなにスピーチをする時は、聞いている人は私たちばかりでなく、別のグループだった人もいますので、『南禅寺』とか『枯山水庭園』とか『虎の襖絵』とか急に言われても、よく分からない人もいるのではないかと思います。だから、お寺や文化財の話題を出す時には、できるだけ映像資料も出すようにすると思います。」

田島さん 「ありがとうございます。もらってきたパンフレットもたくさんあるので、クラスでスピーチを行う日までに工夫します。」

渡辺さん 「私は田島さんとは違うグループでしたが、私たちのグループも実は二日目のグループ別見学で嵯峨野に行っていて、田島さんのグループと同じくトロッコ列車に乗ってから川下りをしました。だから、田島さんが言っていたように、トロッコ列車や川下りの途中で眺めた嵯峨野の紅葉が本当に色とりどりで美しかったことや、川下りのスリルをよく覚えていきます。だからこそ、トロッコ列車や川下りで田島さんが美しいと感じた嵯峨野の光景や川下りの様子を、聞き手の人に詳しく伝えてもらいたいと思うので、田島さんが『きれいでした』とか『すごい迫力でした』と言っていた部分を 。」

田島さん 「はい。ありがとうございます。」

天野さん 「課題に合わせたスピーチにするための提案なのですが、 。」

田島さん 「ありがとうございます。考えてみます。」

問1 吉川さんのアドバイスについて正しく説明しているものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 。

- ① 吉川さんのアドバイスは、「伝統に敬意を払う」という視点からのものであった。
- ② 吉川さんのアドバイスは、「考えの根拠を明確にする」という視点からのものであった。
- ③ 吉川さんのアドバイスは、「言葉遣いに気をつける」という視点からのものであった。
- ④ 吉川さんのアドバイスは、「伝達する内容を効果的に伝える」という視点からのものであった。
- ⑤ 吉川さんのアドバイスは、「感情を豊かに表現する」という視点からのものであった。

問2 空欄

A

に入る発言として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は

10

- ① 他の部分よりも大きな声で言ってほしいです
- ② もう少し具体的に説明してほしいです
- ③ もっと情感をこめて言ってほしいです
- ④ ゆっくりと力強く言ってほしいです
- ⑤ 二度繰り返ししてほしいです

問3 空欄

B

に入る発言として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は

11

- ① クラスのみんなとの絆を深めた修学旅行だったという田島さんの感想と、取り上げているエピソードとの関連がよく分からないと思います。だから、取り上げているエピソードに田島さんの感想を合わせるか、もしくは、今の田島さんの感想に合わせてクラスのみんなとの絆を深めたと感じているエピソードを入れるとよいのではないのでしょうか
- ② 歌舞伎の『楼門五三桐』を知っている人は少ないと思うので、説明が必要だと思います。『楼門五三桐』のストーリーや、大泥棒と言われる石川五右衛門のことを、もっと丁寧に説明するとよいのではないのでしょうか
- ③ 学年やこのクラスのみんなについての説明がないので、「この高校で、この学年のみんなと、さらにいえば、このクラスのみんなで行った今年の修学旅行が最高のものでした」と言っても、聞いている人の共感を得にくいと思います。だから、田島さんが感じている、学年やクラスの雰囲気が変わるような他の学校行事の紹介を入れるとよいのではないのでしょうか
- ④ 田島さんたちのグループの二日目の見学テーマがよく分からないので、聞いている人が興味を失ってしまうと思います。だから、二日目のグループ別見学の具体的なエピソードを語る前か、またはそれを語った後で、田島さんたちのグループの二日目の見学テーマを明らかにするとよいのではないのでしょうか
- ⑤ 聞いている人にとって、グループ別見学の初日が自由見学、二日目テーマ別見学であることは自明なので、それに関する説明は省いてもよいのではないかと思います。その部分を省けばまだ話す時間があるはずです。クラス別見学で行った東寺と西本願寺は本当にすばらしかったので、スピーチの内容に入れるとよいのではないのでしょうか

3

北高校の演劇部では、地元の商店会主催の夏祭りへの協力依頼を受け参加することになった。三年生で部長の山本さんと二年生の四名の部員は、部全体の話し合いに向けて、商店会からの依頼内容に基づいて、夏祭りの企画案について事前検討会を行うことにした。【検討会の様子】は、その時の五人の話し合いの様子である。【企画書第一次案】は、その内容に基づいて、山本さんが作成したものである。これらを読んで、問に答えよ。

【検討会の様子】

山本さん 「これから、夏祭りの企画を考える事前検討会を始めます。まず、商店会からの依頼内容を説明します。日時は八月二日の日曜日、準備は午後一時からで、夏祭りは午後六時から午後八時まで商店街を歩行者天国にして行うそうです。私たちが使う場所は、駅前駐車場の一角です。内容は、子供たちが楽しめる企画をお願いしたいということでした。その他として、必要な道具は商店会の各店舗から借りることができます。購入する場合は、予算は二万円以内です。照明や音響の設備を使う場合は用意してくれるそうです。あと、企画の名称、貸出しを希望する物品、購入を希望する物品を企画書にまとめて七月初旬までに提出しなければいけません。まず今日は、皆さんに案を考えてもらい、それぞれの案を発表した後、全体の話し合いで検討する企画案を決めていきたいと思っています。」

高橋さん 「演劇部である私たちに依頼してきたわけなので、演劇部らしいことをやりたいですね。」

吉田さん 「依頼にある『子供たちが楽しめる』というのも大事にしないと。」

江口さん 「子供が楽しむと言ったらヒーローショーでしょう。私たちがヒーローの格好をして。シナリオを考えてみては。」

吉田さん 「お化け屋敷はどうでしょうか。夏ですし、子供が喜ぶと思います。演技力とメイクの技術、小道具や大道具作りの技も生かせるのでは。」

山本さん 「どちらも楽しそうですが、一つに決めましょう。どのように決めましょうか。」

加藤さん 「基準は、やはり子供が楽しめるかどうか、じゃないでしょうか。」

吉田さん 「いろんな楽しみ方があるけど、見て楽しむだけじゃなくて、子供が参加できるのがいいと思います。体験型っていうか。」

加藤さん 「それなら、ヒーローショーを見るよりはお化け屋敷ってことになりませんかね。」

高橋さん 「その二つなら、お化け屋敷の方がいいと思います。」

加藤さん 「私も賛成します。」

山本さん 「お化け屋敷という案に賛成という意見が出ていますが、江口さんもそれでいいですか。」

江口さん 「いいですが、お化け屋敷は体験といえど体験だけど、子供が参加するという感じではないような気がします。」

山本さん 「なるほど、それもそうですね。ではどうしましょうか。ちなみに、提案者の吉田さん、どんな内容を考えましたか。参考になるかもしれないので少し具体的に説明してみてください。」

吉田さん 「はい。仕掛けをした通路をお客さんに歩いて通ってもらって、私たちがお化けになって驚かせる形式がいいかなと考えました。それならばさらに驚かせるのではなくて、入口から出口までが一つのお話になるようにしたらどうかかなと思って。」

江口さん 「じゃあ、そのお話を冒険ものにして、途中で作った仕掛けを乗りこえたり、クイズを解いたりして、ゴールを目指すというアトラクションにしたらどうでしょう。アミューズメントパークのアトラクションにあるみたいに。」

吉田さん 「それは面白いかも。脚本を作ったり、案内役を私たちが演じたりすれば演劇部らしさも生かせるし。」

加藤さん 「私もいいと思います。」

山本さん 「それでは企画案は、冒険アトラクションに決定しましょう。次は、その具体的な内容です。」

高橋さん 「まず、会場はどうするのですか。駐車場に小屋でも建てておくことででしょうか。」

吉田さん 「それはさすがに無理だから、体育祭なんかで使うテントを二つくらい並べて立てたら屋根もあるしいいかなと思って。周りを囲うタイプのものであれば壁もできるかも。」

山本さん 「なるほど。そういうテントなら商店会で持っていそうですね。商店会に聞いてみましょう。」

江口さん 「そうなるよ仕切りの壁が必要ですね。ペニヤ板だと買わなくちゃいけませんし。暗幕なら部にも少しはありますけど。あと、工具も必要ですね。部で持っているもので足りませんか。」

加藤さん 「ペニヤ板を立てるとなると、支えを作る角材も必要ですね。」

高橋さん 「大がかりですね。作ると時間がかかりますね。部屋にある物でできないでしょうか。」

吉田さん 「ところで、案内役もそれなりの格好をするなら、メイク道具や衣装もほしいですね。メイク道具は普段使ってるものでいいと思います。特別な化粧品などは予算で買わないといけないかもしれないですね。衣装も必要なら材料を予算で買って作りましょう。小道具も作る必要がありますね。予算は足りるでしょうか。他にアイデアが出るかもしれないから、全体の話し合いで他の人にも聞いてみましょう。」

江口さん 「そうは言っても、脚本が決まらないと、何が必要かはつきりしないですよ。」

高橋さん 「脚本か……。オリジナルの脚本を作るのは大変そうだから、市販のゲームのストーリーを再現したらいいんじゃないでしょうか。」

吉田さん 「それはやってはいけません。全体の話し合いでもっと意見をもらって決めましょう。私はオリジナルで作りたいと思います。」

江口さん 「私もそう思います。演劇部らしくオリジナルの脚本を作りましょう。」

加藤さん・高橋さん・吉田さん

「賛成です。」

山本さん 「皆さん、ありがとうございます。今日の検討会で出た意見をまとめて、企画書の第一次案を、商店会からもらった書式で作ってきます。

次回の全体会では、それを見ながら細かいところを決めましょう。確認ですが、脚本は自分たちで作るということでもいいですね。あと、企画のタイトルは私が仮に考えてきます。以上について、いいでしょうか。」

江口さん・加藤さん・高橋さん・吉田さん

「異議ありません。お願いします。」

山本さん 「それでは、これで事前検討会を終わります。」

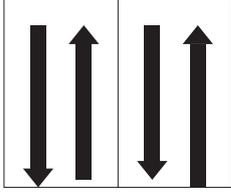
平成 年 月 日

るりの木商店会夏祭りイベント企画書

団体名 ( 北高校演劇部 )

代表者 ( 山本 花子 )

連絡先 ( 〇〇〇-△△△-□□□□ )

<p><b>1 企画名</b> 真夏のアドベンチャー 冒険の旅に出よう！(仮)</p>	<p><b>4 会場のイメージ図</b></p>  <p>テント二つ並べる 矢印は順路を表す</p> <p>出口 入口</p>
<p><b>2 企画のテーマ</b> 演劇部の日頃の活動を生かす。 体験型</p>	
<p><b>3 ターゲット</b> 子供</p>	
<p><b>5 具体的な内容</b> 仮設の建物に通路を作って、お客さんに歩いて通ってもらう。 入口から出口までが一つのストーリーになっている。 通路に仕掛けをする。部員が案内役になる。 お客さんは仕掛けを乗り越えたり、クイズに解答したりしながらゴールを目指す。 吉田さんがオリジナルの脚本を作る。 テントを借りられるかどうか確認する。</p>	
<p><b>6 必要な物品・材料</b> 仮設の壁を作るためのベニヤ板・角材・工具 メイク道具 衣装 小道具 テント 暗幕</p>	
<p><b>7 準備日程</b></p>	
<p><b>8 商店会への要望</b></p>	
<p><b>9 備考</b> 必要な物品は、部で持っているものを使う。</p>	

問 山本さんが作成した【企画書第一次案】について前回の事前検討会の参加者から、前回の話合いの内容を踏まえて、修正した方がよい点があるとい

う指摘があった。修正すべき点についての意見として適当でないものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 12。

- ① 「2 企画のテーマ」に「体験型」とあるが、商店会からの依頼にこたえているかどうか、商店会の人に伝わらないかもしれないので、「子どもたちが体験して楽しめる企画」と改めるのがよい。
- ② 「5 具体的な内容」に書かれている「テントを借りられるかどうか確認する。」は、この項目には入らないので、「8 商店会への要望」の項目に記入するとよい。
- ③ 「5 具体的な内容」に「仮設の建物」とあるが、事前検討会の話合いを聞いていない人には、新たに建物を作るといのように誤解される可能性がある。そのため、「仮設の建物(テント)」と付記するとよい。
- ④ 「5 具体的な内容」に「吉田さんがオリジナルの脚本を作る。」とあるが、誰が作るかということは決まっていないので、決定事項である「オリジナルの脚本を作る。」とだけ記載するのがよい。
- ⑤ 「9 備考」の記載は、何が必要か具体的にでない、事前検討会の内容を反映させて「部の持ち物で使えそうなものは使う。小道具・メイク道具・工具・衣装」と改めるのがよい。



## 4

次の文章を読んで、問1～問6に答えよ。

人間と自然の失われた調和を取り戻す——この言葉は、「地球にやさしい」というキャッチフレーズと同じように、心に響く美しい表現かもしれませんが、けれど、現在の環境問題を考えるとき、はたして適切な言葉と言えるのでしょうか。そもそも、この表現の基礎にある疎外論的発想は、有効な論理を提供するのでしょうか。

疎外論をとる場合、陥りやすい危険は、歴史のネジを逆に回し、未来ではなく過去へと回帰することです。エコロジーで、「自然との調和を取り戻す」と語られるとき、じつさいには過去の「原初的な調和」へ舞い戻るにすぎないのです。<sup>(注2)</sup>人間中心主義を批判して、牧歌的な自然が称賛されるとき、目標とされたのは過去にほかなりません。極端な場合には、近代の科学文明が否定され、原始的な生活を提唱するようにさえ見えます。

しかし、「疎外論」が前提とするような、<sup>A</sup>原初的な「自然との調和」というモデルが、怪しいのではないのでしょうか。<sup>(注1)</sup>こうした状態が、はたして存在したことがあるのでしょうか。現在以前の、いつの時代に、そのような「人間と自然の調和」が成立していたのでしょうか。<sup>(注3)</sup>『啓蒙の弁証法』も明らかにしたように、人間による自然支配は、ある意味では文明化とともに始まった、と言えます。人間が知力を使って自然とかわるかぎり、自然支配の欲望は unavoidable なのです。

とすれば、人間の歴史をどこまでさかのぼっても、原初的な「人間と自然の調和」には達しないのではないのでしょうか。むしろ、ハッキリいえば、こうした「原初的な調和」なるものは、後になって理想化された状態にほかなりません。ニーチェだったら、おそらく「捏造された」と表現するでしょう。人間中心主義を批判する人たちは、自分たちのロマンチックな自然への憧れを、あたかも原初的な状態であるかのように空想(捏造)したにすぎないのです。

しかし、こうした自然への憧れが、近代の豊かな社会のもとで発想されることに、注意すべきです。それは、たとえば、都会で裕福に生活している人が、ときどき田舎の生活に憧れるようなものです。つぎのようなエコロジストの記述を見ると、その感が強くなるのではないのでしょうか。

自分で井戸から運んだ水や自分で集めた木々と共に、田舎にある自分のコテージにいる時には、どんな金持ちよりも豊かだと感じます。ヘリコプターに乗って山頂に行つたとします。景色は絵はがきのように見え、頂上にレストランがあれば、食べ物がちやんとできていないと不満を言うかもしれません。でも、もし苦勞してふもとから登つたならば、深い満足感を味わって、スキーのワックスと砂が混ざつたサンドイッチでさえ、すばらしく美味(おい)しいと思うはずで。す。(ネス「手段は質素に、目標は豊かに」)

しかし、「頂上のレストラン」と「砂混じりのサンドイッチ」を対比するのは、裕福な一部の人々にしか意味をなしません。いつもレストランで美味しいものを食べている人には、「砂混じりのサンドイッチ」もたまには美味しく感じられるでしょう。しかし、自分のコテージもたず、ヘリコプターに乗ることもなく、土ぼこりのする道路脇で「砂混じりのするサンドイッチ」を食べる人にとって、それは美味しいのでしょうか。

少し視野を広げて考えてみましょう。疎外論的発想で、「自然」への憧れを語るとき、前提されているのは、「人間」との二元的な対立です。「自然」を、「人間による支配」から解放することが、目標にされています。しかし、この対立そのものが問題なのです。

たしかに、「自然」と「人間」の対立は、古くから常識的になってきました。「自然」と「人工」は、しばしば対義語として使われますし、「自然」と「文化」の対立も、同じように考えられます。人為的ではない「自然」に対して、「文化」が人間の現象であることは、いわば定義に属しています。そのため、エコロジーでも「自然」を考えると、人為的ではない「自然」が想定されてきたのです。

しかし、すでに確認したように、人間抜き「自然」とは抽象的な虚構にすぎません。人間が眼前に見いだす「自然」は、それに先立つ世代によって手加えられてきた「自然」であって、「社会的形成物」と表現できます。「自然」は、つねにすでに、多くの人々によって手が加えられ、また今後も手が加えられていきます。人間の活動を離れて、「自然」が独立にあるわけではありません。その意味では、「自然」は、「文化的形成物」と呼んでも、間違いではないでしょう。

このように考えると、実践的な方向についても、重大な指針が示されるように思えます。いままで、環境保護のためには、人間が自然にできるだけ介入しないことが、求められてきました。人間が自然から手を引くことが、エコロジーだというわけです。ところが、そんなことは、そもそも不可能です。望ましいわけでもありません。むしろ、人間が自然をどう管理していくかが重要なのです。それを理解するために、アルド・レオポルドの『野生のうたが聞こえる』を見ておきましょう。

レオポルドといえば、自然保護の原理を打ち出した実践家として、きわめて有名です。彼の原理(「土地倫理」)は、多くの場合、人間中心主義を批判するものとして理解されてきました。たとえば、彼はつぎのように語っています。「土地倫理は、ヒトと、種々の役割を、土地という共同体の征服者から、単なる一構成員、一市民へと変えるのである。」しかし、この立場は、自然にいつさい手を加えないことを主張してはいません。レオポルドは、『野生のうたが聞こえる』の最後を、つぎの言葉で結んでいます。

まとめて言うならば、われわれの現在の問題は、土地に対してどういう姿勢でのぞみ、道具をどう使用するかということである。われわれは蒸

気シャベルを用いて、かつては人力でつくられたアルハンブラ宮殿を改修しようとし、その規模の大きさを得意に感じている。そのシャベルをとでも手離す気になれない。「……われわれに本当に必要なのは、そうした道具を有効に使うための、もっと穏やかで客観的な基準を持つことなのだ。(レオポルド『野生のうたが聞こえる』)」

レオポルドの仕事は「森林管理」ですが、彼はその経験を通して「土地倫理」を形成したのです。その点では、人間の介入しない「土地倫理」はあり得ない、と言わなくてはなりません。

では、「自然」にどうかかわればいいのか。ブライアン・ノートンという環境保護論者は、『持続性』という本のなかで「適応的管理」という概念を提出しています。彼は、「環境プラグマティズム」の立場から「人間中心主義」を唱え、自然に対する「管理」を力説しています。しかし、「管理」といつても、あくまでも「適応的管理」であって、従来批判されたような「人間中心主義」ではありません。では、どんな「人間中心主義」が擁護可能なのでしょうか。

「人間中心主義」とは、「人間の利益実現を中心に置く立場」を意味します。しかし、このとき「人間の利益」をどう考えるかが問題です。たとえば、ある種の生物が食糧として「経済的な利益」になるからといって、乱獲してしまえば絶滅してしまい、結局は「経済的利益」に反します。そこで、「経済的利益」のためにも、生態学的観点が必要になります。しかも、「人間の利益」を「経済的利益」に限定する必要もないでしょう。「人間」が多面的に理解できるように、「人間の利益」も多様な側面から理解できるからです。人間の生存にとって、きれいな水や土壌や空気などは、人間の利益と言えます。

また、「人間の利益」という場合、しばしば誤解されるように、個人の欲求を短期的な観点から求めるだけではありません。むしろ、地域や社会の利益を考えて、個人の欲求を抑制することもあるでしょう。あるいは、将来世代のために、現在の利益が制限されることもあります。その点では、「人間中心主義」だからといって、現在の個々人の欲求をそのまま認めるわけではないのです。ぎゃくに、長期的な視野に立って、広い観点から利益を考慮する必要があるわけです。

さらに、「人間中心主義」は、「精神的価値」についても否定しません。かつては、「人間中心主義」といえば、物質的欲求だけをもち、精神的価値を排除すると、見なされてきました。しかし、ノートンも言うように、「人間中心主義者」たちは、しばしば自然を精神的に評価しています。

いままで、「人間中心主義」を批判するとき、「人間」が「自然」を「搾取」といったイメージで、考えられてきました。しかし、現在では、このようなイメージで「人間中心主義」を無邪気に主張する人はほとんどいません。人間の利益を実現するには、自然の生態系を無視できませんし、短期的な視

野から自然を開発しても、長期的にはかえって不利益になることも多いのです。むしろ、自然に適應する形で、長期的な観点から自然を管理すべきことが、目指されています。

このように考えると、自然を理想化して人間中心主義を反省しても、問題の隠ぺいにはならないでしょう。むしろ、いま必要なのは具体的な問題のなかで、広い視野に立って長期的な観点から自然を管理することではないでしょうか。

(岡本裕一郎『12歳からの現代思想』による。)

(注1) エコロジー——生物相互の関係や、生物と環境の関係を解明する生物学の一分野。生態学。

(注2) 人間中心主義——自然は人間のために存在するものと見なし、人間の利益追求のために自然を利用しようとする考え方。

(注3) 『啓蒙の弁証法』——ドイツの哲学者ホルクハイマーとアドルノの著書。

問1 傍線部A 「原初的な「自然との調和」というモデルが、怪しいのではないでしようか」とあるが、筆者が「怪しい」と考える理由として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 13。

- ① 人間と自然との調和を取り戻すことは近代文明を否定することであり、人類が原始的な生活を選択する可能性は実際にはありえないから。
- ② 人間と自然との調和というモデルは人間中心主義を批判する人たちが理想として掲げているものにすぎず、実現することは不可能だから。
- ③ 人間と自然支配の欲望とは切っても切れない関係にあるので、人間が自然と調和している状態は今までに一度もなかったと考えられるから。
- ④ 人間による自然支配はいわば本能のようなものであり、自然との調和を目指すという行為は人間の存在そのものを否定することになるから。
- ⑤ 人間と自然との調和そのものが空想にすぎないのだとしたら、人間が自然を解放すること自体にどれほどの意味があるのかわからないから。

問2 傍線部B 「頂上のレストラン」と「砂混じりのサンドイッチ」を対比するのは、裕福な一部の人々にしか意味をなしません」とはどういうことか。最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 14。

- ① 都市社会で経済的に豊かな日常を過ごしている一部の人には自然の中の暮らしもたまにはよいものだと思えるが、豊かさと縁のない人たちにとっては特別な価値を持つものではないということ。
- ② 自然の中で質素に暮らすことと都会で裕福な生活を送ることの間に本質的な違いはなく、そのどちらにより高い価値を見いだすかはそれぞれの人生観の違いにすぎないということ。
- ③ 自然の中で暮らしている人にとっては都会での豊かな生活の内実がどのようなものかが理解できないため、二つを比較した上でどちらがよいかを判断することができないはずだということ。
- ④ 豊かな自然の中での暮らしが人間にとってどれだけ価値のあるものかということとは、人工物に囲まれた都会での無機質な生活を経験をしたことがない人にはわからないということ。
- ⑤ 近代社会に生きている人が暮らしの真の豊かさを実感するためには、ときどき自然の中に身を置き、自分の力以外は何も頼るものがない不自由な生活を体験する必要があるということ。

問3 傍線部C レオポルドといえば、自然保護の原理を打ち出した実践家として、きわめて有名です。とあるが、本文からうかがえる「レオポル

ド」の「自然保護」に関する考えを説明したものととして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 15。

- ① 人間の土地に対する立場を、自然の中心に君臨する支配者ではなく自然の周辺を構成する一つの要素に過ぎないと見なす考え。
- ② 人間が土地に手を加える際に、効率的に道具を使用するためのルールを明確に定めることが自然保護には最も有効だとする考え。
- ③ 人間が土地を管理しようとする場合に、人間の文明が自然への脅威とならないように一切の関与を認めないという考え。
- ④ 人間は土地という共同体の一員であることを前提とした指針に従って、自然とかわることが自然保護につながるという考え。
- ⑤ 人間が土地を管理する上で、人間の行動範囲を規制して自然に対する支配的な地位を占めないようにするべきだという考え。

問4 傍線部D 「人間の利益」をどう考えるか とあるが、ここで筆者が述べる「人間の利益」につながる行為の例として適当でないと考えられるもの

を、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 16。

- ① 国内の固有種を保護するために外来種の持ち込みを規制すること。
- ② 社会の発展のために化石燃料を惜しみなく利用すること。
- ③ 安定した収穫を確保するために病気に強い品種に改良すること。
- ④ 生態系を保護するために観光客の来訪数を制限すること。
- ⑤ 災害から集落を守るために植林をすること。

問5 二重傍線部「自然」にどうかかわればいいのか。とあるが、筆者は「自然」とどのようにかかわっていくべきだと考えているか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 17。

- ① 壊れかけた自然の生態系を保持できるように、人間と自然を完全に分離させていくべきだと考えている。
- ② 人間が自然を搾取するというイメージから脱却し、より広い視野に立つて自然に働きかけていくべきだと考えている。
- ③ 自然の精神的な価値に一層目を向け、長期的な観点から自然の理想化を確立していくべきだと考えている。
- ④ 自然を理想として人間中心主義を反省するだけでなく、人間が自然に適応していくべきだと考えている。
- ⑤ これまで開発に用いてきた道具をできる限り早期に廃棄して、自然との共存を実現するべきだと考えている。

問6 この文章における論の展開や内容について述べたものとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 18。

- ① 現在の環境問題を論じる上で主流となっている人間中心主義批判の根拠を、複数の引用を用いて明らかにした上で、自然の精神的価値を尊重する立場から生態系保護の方法を考えるべきだと述べている。
- ② 人間が自然を支配しようとするのが必然的であることを、自然は人間の手が加わった文化であるという新しい見方を根拠に説明した上で、相互利益の観点から人間と自然との関係を論ずるべきだと述べている。
- ③ 近代の豊かな生活のもとで自然と人間との関係を論じることは、人間による自然保護の原則から外れていると説明した上で、支配・被支配の観点から人間と自然とのかかわりを捉えなおすべきだと主張している。
- ④ 人間と自然との調和を自然保護の理想とすることへの反発から、人間が自然へどれだけ介入するかという基準を具体的に示した上で、広い視野から人間と自然との関係のあり方を考えるべきだと論じている。
- ⑤ 疎外論的発想で自然環境保護を論じることは、自然と人間との二元的な対立を前提としているところに問題があると指摘した上で、長期的観点から人間と自然とのかかわり方を考えるべきだと述べている。



5

田中さんのクラスでは、国語総合の授業でⅠとⅡの文章を読み比べた。これらを読んで、問1～問4に答えよ。

Ⅰ

伯牙、鍾子期とは琴の友なり。鍾子、さきだちて失せにければ、「今はたれにか琴の音を聞き知られむ」とて、その絃をはづして、ひかざりけり。

(中略)

元稹と楽天とは詩の友にておはせしが、元稹はかなくなりしかば、楽天、その作りたりし詩どもを三十巻集めて、唐の大教院の経蔵にぞ籠めおかれける。

遺文三十軸

軸々金玉声

竜門原上土

埋骨不埋名

とは、これを書かれたるなり。

楽天、またある文の友に寄せらるる詩にいはいはく、

交情鄭重金相似

詩韻清鏘玉不如

まことに佳友の交はり、なによりもおもしろくあるべし。(注10) 阮家の南北の垣をも隔てず、貧をも恥ぢざりし、なにごとを契りけむ。(注11) 孟母が子を思ふゆゑに、隣を三度までかへけるも、友をえらぶ心、これまたとりどりなり。

(中略)

《山鳥の鏡に向ひて鳴き、雁の行をなして飛ぶ、みな友を思ふ心なり。(注12) 佐保の河原の霧の中に、友まよはせる千鳥の夕暮の声、すぐこそ聞ゆれ。(注13) さゆる入江の波の上に、つがはぬ鴛鴦の浮き寝も、下やすからぬ思ひのほど、さこそはとあはれなり。友なし小舟のほのかに漕ぎ行く明石の浦の嶋隠(注14) れ、友とする人すくなかりける東路の八橋のわたり、かれもこれも思ひやられて心細し。》(注15)

(『十訓抄』による。)

- (注1) 伯牙、鍾子期——人名。
- (注2) 元稹、楽天——人名。
- (注3) 大教院——未詳。
- (注4) 経蔵——経典を納めておく建物。
- (注5) 遺文——生前に書き残した文章。
- (注6) 竜門——竜門山。元稹が葬られた地。
- (注7) 原上——野原の土の上。
- (注8) 鄭重——親密であるさま。
- (注9) 清鏘——清らかで美しい響き。
- (注10) 阮家——阮家は南阮と北阮の家に分かれていた。
- (注11) 孟母——戦国時代の思想家孟子の母。
- (注12) 佐保——現在の奈良県北部の地名。「佐保の河原」は歌枕。
- (注13) さゆる——冷え冷えとした。
- (注14) 明石の浦——現在の兵庫県明石市の海岸。歌枕。
- (注15) 八橋——現在の愛知県知立市の地名。歌枕。

II

服虔(注1)既善(注2)春秋(注3)将(注4)為(注5)注(注6)欲(注7)参(注8)攷(注9)同異(注10)聞(注11)崔烈集門生講(注12)伝(注13)遂(注14)匿(注15)姓名(注16)  
 為(注17)烈門人賃(注18)作食(注19)每(注20)当(注21)至(注22)講時(注23)輒(注24)窃(注25)聽(注26)戸壁間(注27)既知(注28)不(注29)能(注30)踰(注31)己(注32)稍(注33)  
 共(注34)諸生(注35)叙(注36)其短長(注37)烈聞(注38)不(注39)測(注40)何人(注41)然(注42)素聞(注43)虔名(注44)意疑(注45)之(注46)明蚤往(注47)及(注48)未寤(注49)  
 便呼(注50)「子慎(注51)、子慎(注52)」虔(注53)、不(注54)覺(注55)驚(注56)応(注57)遂相与友善(注58)

〔世説新語〕による。

- (注1) 服虔——人名。後出の「子慎」も同一人物。
- (注2) 春秋——中国の歴史書。後出の「伝」はその注釈書。
- (注3) 参攷——「参考」に同じ。
- (注4) 崔烈——人名。
- (注5) 賃——雇う。
- (注6) 窃——こっそりと。
- (注7) 戸壁間——戸や壁のかげ。
- (注8) 踰——まさる。
- (注9) 稍——次第に。
- (注10) 叙——論ずる。
- (注11) 明蚤——次の日の朝。

問1 傍線部A その絃をはづして、ひかざりけり とあるが、その時の心情として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。 解答番

号は 19。

- ① 鍾子期が琴を無くしてしまったので、鍾子期の悲しみを思いやって自分も琴を弾くのを生涯やめようという思い。
- ② 鍾子期の所在が分からなくなってしまったので、なるべく早く一緒に琴を弾く友人を作り心を慰めたいという思い。
- ③ 鍾子期が先に死んでしまったので、今となっては誰も自分の琴の音について理解してくれる者はいないという思い。
- ④ 鍾子期からの連絡が全く来なくなってしまったので、鍾子期から預かった琴を許可なく弾くことはできないという思い。
- ⑤ 鍾子期の残した琴のすばらしさを自分では生かせないので、見事に演奏することのできる人物を見つけようという思い。

問2 傍線部B 籠めおかれける とあるが、その理由として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。 解答番号は

20。

- ① 元稹の詩文には学ぶべき優れた技法が多く、後の詩人たちにそれらの技法をまねさせたくなかったから。
- ② 元稹の詩文には家族ぐるみの思い出がたくさんつまっており、その思い出を風化させたくなかったから。
- ③ 元稹の詩文には楽天の詩文に勝る良さがあり、今より価値が出るまでしまっておこうと思ったから。
- ④ 元稹の詩文には楽天の詩文より劣る点があり、優れた作品のみを選んで保管すべきだと考えたから。
- ⑤ 元稹の詩文には美しい響きをもつ優れた作品が多くあり、それを後世に残しておきたいと考えたから。

問3 本文中の《 》で囲んだ「山鳥の鏡に向ひて鳴き、……かれもこれも思ひやられて心細し。」の部分で述べられている内容として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は  。

- ① 夕暮れの霧の中で友を見失った千鳥は仲間を探し求めて鳴くが、その声がもの悲しさにあふれているということ。
- ② 山鳥は水面に映る自分や仲間の姿を見つけては悲しげに鳴くが、心の中では一羽でいるのを楽しんでいるということ。
- ③ 雁は風の影響を受けにくい隊形を作って飛ぶが、心の中では一羽で自由に飛んでみたいと思っているということ。
- ④ 鴛鴦は友を失っても平気で見えるように見えるが、実際は悲しみのあまり夜も眠れずに水面に漂っているということ。
- ⑤ 友のいない小舟に乗る人は身を隠すように旅をしているが、本心では理解し合える友を求めているということ。

問4 田中さんたちは、I・IIの文章の内容を踏まえて「友」についての話し合いをした。次の【話し合いの一部】を読み、空欄  ～  に入るものとして最も適当なものを、後の各群の①～⑤のうちからそれぞれ一つ選べ。解答番号は  ～  。

【話し合いの一部】

田中さん	「Iの文章にもIIの文章にも、友に対する思いがそれぞれ書かれているんだよね。」		
渡辺さん	「そうね。Iの文章の伯牙と鍾子期や元稹と楽天の話では <input type="text" value="X"/> ということについて書かれているわ。」		
佐藤さん	「うんうん。ところで、私はIIの文章の内容で『匿名名』の理由がよく分からなかったのだけど、どうしてだったのかな。」		
阿部さん	「ああ、そこは <input type="text" value="Y"/> ということが理由じゃないかな。」		
佐藤さん	「なるほど。その後二人の関係は変わったんだね。」		
阿部さん	「そうそう。IIの文章は <input type="text" value="Z"/> ことについて書かれていると考えたけれど、どうだろう。」		
田中さん	「そうだね。私は『春秋』をめぐる服虔と崔烈という二人の人物の行動を追いながら読み進めることで、おもしろく読むことができたよ。」		

阿部さん 「だとすると、ⅠとⅡは同じく友を題材にはしているけれど、違う思いが書かれていると考えられるね。」  
 渡辺さん 「そうね。異なった視点から友について考えることができて、とても良かったわ。」

X  
22

- ① ささいなことがきっかけで別れてしまった友でも、何かにつけて思い出ししてしまう
- ② 互いに競い合い多くの月日を一緒に過ごした友でも、死後は思いが薄れていく
- ③ 幼い頃から常に友を優先し、友の死後はその功績を残すために精一杯尽力する
- ④ お互いが相手のことを認め尊重し合い、別れてもなお友への思いを忘れない
- ⑤ それぞれが自分の人生の充実を願い、時には相談し合える者同士として支え合う

Y  
23

- ① 日頃から見下してきた崔烈の元へ行き、自分の名前を明らかにして『春秋』に関する教えを請うのは恥ずかしかった
- ② 他の系統である崔烈の元に入りしていたことが明るみに出て、『春秋』の注釈に関わる立場から外されるのを恐れた
- ③ 『春秋』に習熟している自分の素性を知られずに、自分と諸家との『春秋』の注釈の違いについて知りたかった
- ④ 『春秋』の注釈は門外不出のことなので、自分が『春秋』について調べていることを誰にも知られたくなかった
- ⑤ 既に崔烈に弟子入りをして『春秋』の注釈に携わっていたので、わざわざ名前を出す必要はないと考えた

Z  
24

- ① 幼い頃から競い合った者同士が、様々な経験を重ね大人になることで晩年には和解していく
- ② 異なる系統にいながら同じ志をもつ者同士が、互いに交流したことで新たに友情を育んだ
- ③ それぞれの家の伝統を守る立場にある者同士は、時には友とでも競い合わなければならぬ
- ④ 心を許し合った友同士は、久しく会えない時間を経ることで相手の気持ちを理解できるようになる
- ⑤ 同じ系統に属し同じ道を歩む者同士は、常に相手より優位に立つことを考えなければならぬ

